

受賞一覧表

1年	
金賞	1I『明日へ』
銀賞	1B『虹』
銅賞	1J『僕が守る』
パフォーマンス賞	1K『パプリカ』
最優秀指揮者賞	竹内優輝(1J)
最優秀伴奏者賞	関崎愛里(1B)
2年	
金賞	2I『僕のこと』
銀賞	2B『証』
銅賞	2E『青い鳥』
最優秀指揮者賞	石原七海(2D)
最優秀伴奏者賞	川嶋征周(2B)

ホールに響く努力の音色

第17回合唱祭開催

1月16日(木)に立川市にあるたましんRISURUホールで第17回合唱祭が行われ、各クラスが作り上げてきた歌声がホールに響き渡った。今回は合唱祭で優秀な成績を収めたクラスや、合唱祭の成功を支えた生徒に話を聞いた。

2年金賞1組

『僕のこと』を歌った2I。男女でバランスの取れた声量と若者が共感しやすい歌詞が相まって生徒の心を引いたのは、Ms. GREEN APPLEの



『僕のこと』を歌い、見事金賞に輝いた2I

た。クラス全員が指揮者に注目し、声を伸ばすところ、止めるところがびたりと揃っている合唱からは2Iの一体感がひしひしと伝わってきた。

クラスの合唱祭実行委員の阿部優介くんは「ミスがあったものの、それを気にさせないほどの迫力やハーモニーの美しさが良かったです」と本番を振り返る。2Iは各パートの音取りを正確にすることや、一言ひとこととはっきり歌うことに力を入れて練習してきたという。最後に「このクラスで行う最後の行事で金賞を獲れたのはとても良い思い出になりました。本当にありがとうございました」とクラスメイトの協力に感謝の気持ちを示した。

1年金賞1組

新クラスが始まった4月からこの合唱祭に焦点を当ててきたという1I。本番では、昨年の合唱祭の全体合唱曲、富



1組にしか歌えないオリジナルの『明日へ』

岡博士作詞・作曲の『明日へ』を歌い見事金賞に輝いた。この曲特有の速いテンポに合わせ、男女のバランスがとれたハーモニーで会場全体を包み込んだ。

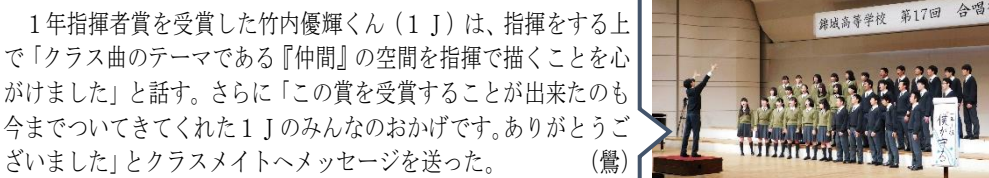
先生合唱も大盛り上がり

毎年恒例の先生合唱では、指揮・中澤椋太先生、伴奏・辻唐平先生で『宇宙戦艦ヤマト』が歌われた。観客席からは先生の名前を呼ぶ声や「先生可愛い」「曲が古い」「ピアノすごい」など多くの反応が見られた。



恥を捨て大きめに指揮をしました。みんなが楽しんでくれたので良かったです！

2年指揮者賞を獲得したのは石原七海さん(2D)。「私自身、他クラスの合唱を聞いて緊張してしまっていたため、練習より上手に振ることは出来ませんでした」と本番を振り返る。最後に「もしまた指揮者をする機会があれば、パーフェクトに振れるよう努めます」と思いを語った。(蘭)



クラスを引っ張った表現力

～最優秀指揮者賞・伴奏者賞～



伴奏者賞を受賞した川嶋くん(左)と関崎さん(右)

昨年に続き、2年連続で最優秀伴奏者賞を獲得した川嶋征周くん(2B)。伴奏の練習は年が明けてから始めたというが、始めるのが遅かった分、前日まで必死に練習したそうだ。「本番は合唱に合わせて伴奏ができたと思うので良かったです。2年連続の受賞を目指していたので素直に嬉しいです」と話した。また、幼稚園に入る前からピアノを習っているという1年最優秀伴奏者賞の関崎愛里さん(1B)。自身の演奏を「ペダルでミスをするなど納得いかない点ばかりでした」と振り返る。しかし、賞に選ばれた感想を聞くと「喜びと驚きでいっぱいです。クラスみんなに感謝です」と笑顔を見せた。(蓮・李)

成功へ導いた裏方たち

色々な観点で審査

審査係チーフの川嶋征周くん(2B)は、審査をするうえで、自分たちの採点で各クラスの運命が決まるという緊張感があったと話す。



審査係チーフの川嶋くん(右)と司会チーフの内田さん(左)

自身は1年生のクラスを審査したという今年ほどのクラスも上手かったです。特に金賞・銀賞・銅賞は僅差でした。ただ、金賞の1組は曲をアレンジするなど、声量が高かったと思います」とコメント。

最後に来年の合唱祭にむけて、1年生へ技術云々というより、人に伝えられる合唱を目指せば審査員も良い評価をつけてくれるはずだ」と話して、笑顔を見せた。

最後に来年年度の合唱祭実行委員会に向けて「しっかりと指示を出しつつ、分からないことがあれば周りに頼ることも大切にしてほしい」とメッセージを送った。(蓮・李)

から始まったという。本番前には読み合わせも行った。内田さんはチーフとして率先して行動しないといけないため、不安もあったそう。しかし、先生方や他の司会係3人の協力のおかげで成功しました。ありがたかったです」と話して、笑顔を見せた。

反省点として、事前に先生から許可をもらったクラス紹介の原稿を本番で変更したクラスがあったことを挙げた。最後に今回の反省点を改善して、今年以上にみんなが楽しめるものにして欲しいです」とメッセージを送った。

こと初めからアウトオブ眼中でしたと矢野くん。池上くんは「本番は練習時よりも声が出ていました。クラスのみんながよく頑張ってくれたと思います」とクラスメイトに感謝の言葉を述べた。

今回の合唱祭を実行委員長の細川遥菜さん(2C)は「思っていたより時間がオーバーしてしまいました」と振り返る。振り返ると「目指せ！全員参加型合唱祭！」という今年のテーマについては「舞台裏にあまり生徒たちをみることはできなかったですが、達成感や楽しさを感じたと思います。歌手のあたたかみは「マトリョーシカ」という曲で、自分の内面を隠して、何重にも取り繕って一生懸命隠している今どきの若者の気持ちを歌っている。正直、編集部に行くのがめんどくさいと思ったり、先輩に不満を持ったりする「赤色」の自分もいる。確かに、仲間と盛り上がる時の「黄色」の自分もいる。確かに自分も色々だ。自分だけじゃない。部活で活躍した錦城生の取材、全国で活動する他校生徒の取材など、新聞の活動で十人十色、様々な「色」の人たちに出会うことができる。焦りの色あがらない編集長、回んでブルーな副委員長、締切直前で疲れた色が隠せない他委員会メンバー。この編集部も本当にいろいろな「色」を大切にしたい。(雀)

不要なパソコンはありますか？

新聞委員会編集部は、**現在パソコンの寄付を大募集しています!!**

新校舎7階生徒会室で待っています!

むらさき草

今更だが、一年生5人、二年生8人の新聞委員会編集部が所属している。編集部の人に興味はねえよと思う人がいるかもしれないが読んで欲しい。この錦城高校新聞を作る編集部は、根暗で真面目なイメージのあるかもしれない。だが先日の編集部は爆笑の渦だった。個性豊かで色々なメンバーが集まって、実際のところ毎日大騒ぎの編集部だ。そして、締め切りが迫るがそれぞれ特色を生かして紙面を完成させていく。森絵都さんの小説『カラフル』は、自殺した主人公が天使の協力を得て、他人の体で人生をやり直す話だ。その主人公が好意を寄せているひろかは、きれいなものが好きな自分、自分を壊してしまいたい自分、自殺したくない自分、「色んな自分」がいるんだと主人公に話していた。物語を通して、主人公とひろかは一人ひとりが持っている様々な「色」を大切にしようとする。読み終えた後、人は単色ではなく「カラフル」なのだを感じる小説だった。もちろん、人に見せる色もあれば、人には見せたくない色もある。誰でも「愛想笑い」をしたことがあると思う。歌手のあみよんは「マトリョーシカ」という曲で、自分の内面を隠して、何重にも取り繕って一生懸命隠している今どきの若者の気持ちを歌っている。正直、編集部に行くのがめんどくさいと思ったり、先輩に不満を持ったりする「赤色」の自分もいる。確かに自分も色々だ。自分だけじゃない。部活で活躍した錦城生の取材、全国で活動する他校生徒の取材など、新聞の活動で十人十色、様々な「色」の人たちに出会うことができる。焦りの色あがらない編集長、回んでブルーな副委員長、締切直前で疲れた色が隠せない他委員会メンバー。この編集部も本当にいろいろな「色」を大切にしたい。(雀)